

シンポジウム 13-『産業界シンポジウム－企業における未来志向の最先端分析解析技術』
(一般公開)

オーガナイザ：宮野 博（味の素イノベーション研究所）（代表者）
内山一美（首都大学東京）

趣旨 分析化学は、過去から企業の研究・生産等の事業活動を支えてきた。最近の分析・解析技術の発展は著しく、観えないものが観え、解らないことが解るように、まさに分析化学は現象の本質理解に迫ることができるようになり、企業の分析・解析部門においても、最先端の分析・解析技術を駆使して、現象の本質理解や課題解決を行なってきた。企業における最先端の分析化学とその展開・将来像について議論することを目的とする。

【講師及び演題】

- 1 上田輝久（島津製作所）
「人と地球の健康」への分析化学の挑戦」（仮題）
- 2 青柳岳司（産業技術総合研究所機能材料コンピューテーショナルデザイン研究センター）
「多階層な高分子材料シミュレーション技術の産業応用」
- 3 高橋雅行（第一三共 RD ノバーレ 分析研究部）
「医薬品探索研究における分析の多様性と現状」
- 4 野呂純二（日産アーク現象解析部）
「電池分析の最前線」（仮題）
- 5 城代哲史（JFE スチールスチール研究所分析・物性研究部）
「鉄鋼業における分析技術の現状と将来」（仮題）
- 6 梯 伸一郎（三菱マテリアル）
「非鉄材料メーカーに於ける分析評価の活用」

※演題は変更する場合があります。講演順は未定です。